

令和6年度 学校評価 最終報告

						石川県立医王特別支援学校	
重 点 目 標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	結果	判 定 基 準	分析（結果と課題及び改善策等）	
(1) 授業実践力の向上	教科の見方・考え方の視点を意識した授業作り	教務課	校内研究会における授業作りの協議を通して、国語科の見方・考え方の理解を深め、授業の工夫・改善に取り組んだ教員の割合が A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満	回答数：11名 できた：4名 ややできた：7名 できた：36％	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：D 成果：教科指導等研究会に向けての指導案検討、授業についての話し合いを通して国語科の見方・考え方の理解を深め、授業の工夫・改善に取り組んだと答えた教員の割合がやや増えた。 課題：国語科の見方・考え方への共通理解を図り、深めていける機会があまり設定できなかった。また、病棟訪問教育の実態から国語科の授業作りを他の児童生徒へ般化することが難しかった。 改善策：児童生徒の実態を踏まえ、学校の課題と研究テーマについて再検討していく。	
	感染症等の対応を含めた学校行事の柔軟な企画・運営	病棟訪問教育	学校行事、学部行事において、病院と密に連携し、安心安全に配慮し実施できたと感じた教員の割合が A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満	回答数：12名 できた：11名 ややできた：1名 あまりできなかった：0名 できた：92％	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 成果：行事に関するチェックリストの結果から、行事を重ねるごとに病院との連携が密になったり、教員の安心安全への意識が高まったりする傾向が見られた。今年度の行事については大きな課題なく実施できた。 課題：今年度の成果を活かすために、チェックリストの活用を継続したり、行事の実施に関するマニュアルを作成・活用したりし、全員が同じように行事を担当できる体制づくりが望ましい。 改善策：年度初めの行事についてより重点を置いて企画・運営していく。	
	安全防災対策の充実	指導課	地震に対する、本校の安心安全への対策について理解し、満足している児童生徒・保護者の割合が A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満	回答数：16名 満足：10名 やや満足：6名 満足：63％	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：C 成果：児童生徒への指導は避難指導、避難訓練等で自分ができることを確認し、理解していると感じられた。保護者へは学校だより、ホームページ等で周知を図り、概ね理解を得られた。 課題：能登半島地震から1年が経過し、地震に対する対策について保護者の思いを確認しながら細かい課題に対応する必要がある。 改善策：保護者のニーズを確認し、できることから取り組み、周知していく。	
(3) 専門性の向上とセンター的機能の充実	病種理解のための研鑽	教務課	病種理解の研修会等への参加を通して、専門的な知識が増え、今後の指導に活かすことができたと感じた教員の割合が A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満	回答数：12名 できた：6名 ややできた：6名 あまりできなかった：0名 できた：50％	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：D 成果：11月には、医王病院のソーシャルワーカーによる医療的ケア児の災害時支援活動についての研修会を行い、専門的な知識が増え、指導に活かすことができたと答えた教員の割合がやや増えた。 課題：保護者等外部の方にはニーズを捉えた研修ではあったが、教員には実感としてすぐに活かすことのできる内容ではなかった。 改善策：教員の学びたいこと等、ニーズを確認し、研修会を企画・運営していく。	
	教育機関・他機関との連携	コーディネーター、専門相談員	年2回の情報交換会や継続的な相談を通して、その内容を児童生徒への対応や指導に活かすことができた特別支援学級等担当者の割合が A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満	回答数：10名 できた：7名 できなかった：2名 機会がなかった：1名 できた：70％	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：B 成果：全10校からの回答があり、センター的機能としての本校の役割が周知されてきていると考えられる。 課題：病弱特別支援学級は小学校に多く、情報交換会への一定のニーズがある。オンライン相談を含め、顔を合わせて情報交換できる機会を設ける必要がある。 改善策：情報交換会のあり方を検討していく必要がある。また、引き続き相談しやすい体制づくりを行っていく。	
(4) 業務の効率化	効率的校務処理の推進	教頭	各課等において業務内容の共通理解を図り、効率的に校務処理を行うため、データファイルの管理、手順書、ファイル等の見直しなどの改善を2つ以上行った教員の割合が A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満	回答数：12名 できた：8名 ややできた：4名 あまりできなかった：0名 できた：67％	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：C 成果：近年の児童生徒の状況や職員の構成及び業務を踏まえて、今年度の主たるデータフォルダを作成することで、今後のデータ整理のきっかけになり、職員の意識化を図るきっかけができた。 課題：過去のデータやファイルの整理等、個々で取り組むことを目標にすることで達成できた職員の割合が多かったが、まだまだ改善が必要である。今後は各課や部の全体の業務文書の保存等について課題をだした上で、計画的に行うことが課題と考える。 改善策：次年度は、各課や部でデータやファイルの課題・改善策を年度初めに確認した上で、業務改善及び効率化につながる実践を行う。	
学校関係者評価委員会の評価		・目標の達成度について評価の基準を明確に提示し、具体的な質問内容の設定や分析方法を検討すると良い。 ・安心安全に配慮して学校行事等を実施するために、各教員が行っているチェックリストは、病院との連絡調整を滞りなく進める上でも大切で今後も協力体制を築きながら安全に学校行事等を行ってほしい。 ・インターンシップの授業は、将来の希望にもつながる、とても良い機会である。生徒は大変意欲的にお菓子作りに取り組んでいる様子が見られた。このような実践を今後も行われると良い。					
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた改善点		・自己評価計画に関する目標設定や評価規準について具体的に設定し、今後につながるアンケートの質問内容の検討や分析に取り組む。 ・地震等を含む安心安全な学校づくりに向けて、児童生徒や保護者のニーズを捉えながら実践し、情報発信を含めて安全防災対策の充実に努める。					